

CONTENTS

コンソーシアムからのお知らせ

- ・デザインフォーラム ビジネスデザインシリーズのご案内
- ・International Design Symposium in Kyoto 2015のご案内
- ・京都大学サマーデザインスクール開催予定日程
- ・即興演劇とコミュニケーションのデザインワークショップのご案内
- ・デザインフォーラム 政策デザインシリーズのご案内
- ・デザインフォーラム ワークショップデザインシリーズ開催予告

コンソーシアムの動き

- ・京都大学デザインスクール産学交流イベント報告
- ・デザインセミナーSeries2「ヘルスケアデザイン」開催報告
- ・デザインフォーラム開催報告
- ・フェロー会合開催報告
- ・推進委員会開催報告
- ・理事会報告

会員紹介

- ・株式会社東芝
- ・株式会社竹中工務店

CONTACT

デザインイノベーションコンソーシアム

ニュースレター発行：
デザインイノベーションコンソーシアム推進委員会

事務局：
京都市サテライトパーク(株)
産学公連携部内

〒600-8813
京都市下京区中堂寺南町134
TEL 075-315-8522
FAX 075-322-5348
<http://designinnovation.jp>
E-Mail: info@designinnovation.jp

本ニュースレターの配信登録・削除は以下からお願い致します。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/a54f7d5d58943>

コンソーシアムからのお知らせ

デザインフォーラム ビジネスデザインシリーズのご案内

日程：2015年3月25日(水) 17時30分～ 19時頃～懇話会

場所：京都大学デザインイノベーション拠点 (KRP9号館5階)

テーマ：イノベーションに向けてチームで響きあう研究開発
～ 将来に向けた新たな価値創造を目指して～

講師：牧村 実 氏 (川崎重工業株式会社 常務取締役)

概要：川崎重工グループでは、新製品や新技術の開発において、開発の初期段階からカンパニー内の設計や生産の担当者と技術開発本部の専門技術者がチームを組んで取り組んでいる。例えば海外向けの高速度鉄道車両なら、速度や軽量化の顧客要求に対し、安全性や環境への配慮、快適な移動空間の提供、リーズナブルな価格なども必要で、二律背反どころか五律背反くらいの難しい課題が存在する。これをどう乗り越えるか、各分野のスペシャリストを含むチームで議論しながら開発を進めることにより、開発当初は絶対無理だと思えたものが、ある時突然美しい全体最適の形となってまとまりを成すことになる。そして、開発に携わり成功体験を重ねた人財がリーダーとなり、更に新たなチームで次のゴールをめざすことになる。

講演では、製品開発と技術の横展開、技術戦略と将来へ向けた取組み（水素プロジェクトなど）などについて、具体例を挙げながら、トップ自らに生の声で語っていただくと共に、その鍵となる「人財」像についても議論を進めていきます。エネルギー、インフラ、交通など、国の骨格を担う重工業の技術開発マネジメントに直に触れることによって、新たな視点から次世代のビジネスデザインにつなげていきましょう。

参加費： 無料（懇話会参加者は、参加費1,000円）

申込先：<https://pro.form-mailer.jp/fms/51c3d28171619>

講師プロフィール：昭和50年京都大学大学院工学研究科修士課程を修了し、川崎重工業（株）入社。モーターサイクル部門を経て、本社技術開発本部で数々の研究開発に携わり、執行役員技術研究所長、常務執行役員技術開発本部長などを歴任。平成25年から現職。工学博士。



International Design Symposium in Kyoto 2015のご案内

デザインの教育・研究に関する世界的に著名な機関からの招待講演者や京都大学デザインスクールの国際諮問委員会のメンバーが一同に会したシンポジウムが開催されます。ぜひご参加下さい。

日程：2015年3月13日(金)～14日(土)

場所：京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館2階 国際交流ホール

テーマ：Towards Systemization of Implementing Design Studies

スケジュール：

Friday, March 13

10:00-10:30

Opening Ceremony

M.C.: Tetsuo Sawaragi (Kyoto University)

Welcome Address on Behalf of Host Institution

Prof. Masao Kitano, Executive Vice-President for Education (Kyoto University)

Prof. Yoshimasa Nakamura, Director General, C-PIER (Kyoto University)

10:30-12:30

Session 1: Design Education on Interdisciplinary Project Teams Linked with Society

Hiroyuki Matsui (Kyoto University)

Vincent P. Manno (Olin College of Engineering, USA)

Alessandro Biamonti (Politecnico di Milano, Italy)

Discussion Panel on Design Education Hosted by:

Maosong Sun (Tsinghua University, China) (International Advisory Board (IAB))

Alison Leggett (University of Bristol, UK) (IAB)

14:00-16:00

Session 2: Design Research Spectrum from Transformational Fundamentals to Design Innovation

Kumiyo Nakakoji (Kyoto University)

Alison McKay (Univ. of Leeds, UK)

Mark D. Gross (University of Colorado, Boulder, USA)

Discussion Panel on Design Research Hosted by:

David C. Plaut (Carnegie Mellon University, USA) (IAB)

16:30-17:30

Wrap-up Session for the 1st day and Photo Session

18:30-20:30 **Banquet**

Saturday, March 14

10:00-12:00

Session 3: Outreach and Industrial Collaboration in Design

Teruyuki Monnai and Hiroshi Kawakami (Kyoto University)

Antonio Krüger (DFKI and GLOBUS SB-Warenhaus Holding GmbH & Co. KG, Germany)

Discussion Panel on Industrial Collaboration on Design Hosted by:

Barry Katz (IDEO/ Stanford University, USA) (IAB)

Dennis Sylvester (University of Michigan, USA) (IAB)

12:00-12:50

Wrap-up Session towards Systematization of Implementing Design Studies

12:50-13:00

Closing Session

(注)プログラムは変更されることがありますので、以下のWebをご参照下さい。

参加費： 無料

詳細・申込先：<http://www.design.kyoto-u.ac.jp/idskyoto-2015/>

(3月6日(金)締切)

京都大学サマーデザインスクール開催予定日程

来年度は、例年より1週間ほど早い2015年9月16日(水)～18日(金)に開催予定です。テーマ実施・参加に向けてご予約おき頂けますと幸いに存じます。

即興演劇とコミュニケーションのデザインワークショップのご案内

日程：2015年3月11日(水) 10時30分～17時

場所：京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール、II

講師：絹川 友梨 氏 (インプロワークス株式会社)

概要：即興演劇は、シナリオがない中で、その場に出てきたアイデアをお互いに受け入れ合いながら、協同で場面を創っていくものです。自分の行為や言葉が、こんな風に相手に伝わるのか、相手はそんな意図でそうしたのか、といったことは、実際に体験すると大きな驚きとなります。D.A. Schoenが著したように、デザインのプロセスは状況との対話であると捉えられます。時間的経緯の中で、言語的、身体的行為を踏まえた状況を読み取り、それを解釈し、それに呼応する形で表現を作り出す行為であるといえます。即興演劇は、まさにそのプロセスを体現化するものであるとも考えられます。本ワークショップでは、即興演劇を用いたコミュニケーションのデザインと、デザインにおける即興演劇性といったものを、実践を通して体感し、内省していくことを目的とします。講師の絹川先生は、アジア人で唯一の国際的プロフェッショナルインプロバイザーです。当日は動きやすい服装でお越しください。

参加費： 無料

詳細：<http://www.design.kyoto-u.ac.jp/activities/forthcoming/5653/>

申込先：中小路久美代 特定教授 [kumiyo.nakakoji\[at\]design.kyoto-u.ac.jp](mailto:kumiyo.nakakoji[at]design.kyoto-u.ac.jp)

デザインフォーラム 政策デザインシリーズのご案内

日程：2015年3月20日(金) 10時～12時

場所：京都大学デザインイノベーション拠点 (京都リサーチパーク9号館5階)

テーマ：デザイン思考活用に関する政策研究セミナー

講師：藤澤 崇彦 氏 (経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課課長補佐, デザイン政策室室長補佐)

概要：デザイン思考活用に関する調査事業や、インハウスデザイナーが大企業から中小企業に一定期間派遣できる事業、また特定ものづくり基盤技術へ「デザイン開発技術」が追加される改定など、昨今、デザインに力を入れる大企業や中小企業への支援策が充実しつつあります。今回、これらの施策を担当する経済産業省 商務情報政策局 クリエイティブ産業課 課長補佐・デザイン政策室 室長補佐 藤澤崇彦氏をお迎えして、政策立案の意図およびその具体的な活用方法についてご紹介いただきます。その上で、中小企業やデザイナー、デザイン行政に携わる方々等の参加者を交えてディスカッションを行い、現場レベルでの課題の抽出や今後の期待について意見交換を行います。

参加費： 無料

申込先：<http://designinnovation.jp/program/design-forum/post-4.html>

デザインフォーラム ワークショップデザインシリーズ開催予告

日程：2015年4月25日(土) 13時～17時

場所：京都大学デザインイノベーション拠点 (京都リサーチパーク9号館5階)

登壇者：安齋 勇樹 氏 (東京大学 情報学環 特任助教)

テーマ：「ワークショップで問うべき「問い」をデザインしよう！」

概要：ワークショップをデザインすることとは、「適切な問いを立てること」と言い換えてもいいのではないだろうか？ワークショップデザインや創造性を研究テーマとし、昨年4月には「協創の場のデザイン - ワークショップで企業と地域が変わる」を著した安齋氏は、そう語ります。「そもそも良い問いとは何か？」「問いの良し悪しを評価できるのか？」について、一緒に考えてみませんか？

参加費： 無料 (懇親会に参加される方は、懇親会費1,000円予定)

申込方法：announce mailにより、追ってお知らせ致します。

コンソーシアムの動き

京都大学デザインスクール産学交流イベント報告

1月20日(火)に、京都大学デザインイノベーション拠点において、京都大学デザインスクール産学交流イベントが開催されました。

当日は、まず最初に、京都大学デザイン学大学院連携プログラムの教育協議会・運営協議会が開催されました。最初にプログラムコーディネータの石田亨教授からデザインスクールの状況について報告されました。その後、議事に入り、以下の説明が行われました。

- ・「教育カリキュラムについて」松井啓之教授
- ・「デザインイノベーション拠点/デザイン・ファブリケーション拠点の活動について」守倉正博教授
- ・「デザイン学プログラムのこれからの5年後について」榎木哲夫教授

これらの説明を受けて、産学連携による持続可能なデザイン学教育に向けて、産業界の方々との活発な意見交換が行われました。

この後、多くのデザインスクール履修者も加わり、研究の最前線に立つ准教授クラスから最新の話題提供を行う講演会が開催され、以下の5講演が行われました。

- ・「角膜イメージング法：人の視覚の新しい推定法と将来展望」中澤篤志准教授
- ・「形を決定する論理の導き手としてのダイアグラム」竹山聖准教授
- ・「 $(\text{式の数}) < (\text{変数の数})$ の連立一次方程式と通信の問題」林和則准教授
- ・「心理の個人差をデザインする遺伝と環境の関わり」野村理朗准教授
- ・「機械の運動の3次元計測」茨木創一准教授

さらに、会場を移し、デザインスクール懇話会が新年会を兼ねて開催されました。懇話会は、本コンソーシアム副会長の門内輝行教授の挨拶、竹中工務店の天野直樹専務の乾杯の発声で開会しました。会場では、本コンソーシアムの会員の方々、フェローの方々、デザインスクール履修者、教職員の間で、和やかな懇談の輪が広がりました。懇話会にもデザインスクール履修者の多くが参加し、その紹介も行われ、デザインスクール履修者にとっては、産業界を知る貴重な機会となりました。最後に、本コンソーシアム理事の野村総合研究所三浦智康執行役員未来創発センター長による中締め挨拶により閉会となりました。



デザインセミナーSeries2 「ヘルスケアデザイン」開催報告

2月4日(水)～6日(金)に、京都リサーチパークにおいて、デザインセミナーSeries2「ヘルスケアデザイン」が開催されました。

今回のセミナーでは、野村総合研究所上級コンサルタント・京都大学デザイン学ユニットの寺田知太非常勤講師によるプロフェッショナルなファシリテーションにより、講義とワークショップが一体的に進められました。具体的には、講演の内容をグラフィックレコーダーがリアルタイムに記録し、可視化。講義後には各参加者の質問を各チームでディスカッションの上、各チームから質疑応答。さらに、これらを受けて、シナリオプランニング手法を用いたワークショップという形態で進められました。

一日目は、保健・医療・福祉を取り巻く状況と2025年に向けた政策動向などについて以下の方々からご講演を頂きました。

- ・京都大学医学部附属病院 黒田知宏教授
- ・国立国際医療研究センター国際医療協力局長(前厚生労働省保険局医療課長) 宇都宮啓氏
- ・タリン工科大学 Peeter Ross准教授

これを受けて、2025年のヘルスケアサービスに影響を及ぼす政策についてワークショップが行われました。

2日目は、常葉大学安武伸朗准教授から創造的なワークショップのためのリアルタイムドキュメンテーションについて講義が行われました。その後、保健・医療・福祉の現場について以下の方々からご講演を頂きました。

- ・ファイザーヘルスリサーチ振興財団理事長 島谷克義氏
- ・長浜市健康推進課長 藤居敏氏
- ・丹後福祉会庶務部長 引野雅司氏、末次友美氏

これを受けて、2025年のヘルスケアサービスに影響を及ぼす現場の動きについてワークショップが行われました。

3日目には、寺田講師からイノベーション及びシナリオプランニングについて講義が行われました。その後、2025年のヘルスケアサービスの将来シナリオについて、ワークショップが行われ、各チームからプレゼンテーションが行われました。最後に2025年のヘルスケアサービスに対して自らの所属組織が取るべき打ち手について、検討が行われました。

本セミナーは、通常は講演頂くことが困難な各界の講師からの貴重な講演とその講演を受けたプロフェッショナルなファシリテーションによるワークショップを組み合わせたものであり、多数参加したデザインスクール履修者を含め、参加者が他では得られない深い理解と実践的な能力を身に付けられる機会となりました。



デザインフォーラム ビジネスデザインシリーズ開催報告

12月19日(金)に、京都大学デザインイノベーション拠点において、デザインフォーラムビジネスデザインシリーズが開催されました。当日は、東レ株式会社専務取締役の出口雄吉氏から、「ファッションからエレクトロニクス・航空・宇宙まで、化学から生まれた先端素材が世の中を変える」と題して東レの競争力の源や経営戦略について、ご講演頂きました。技術センターを核とした革新技术から事業化技術まで分断されていない研究開発体制と、「深は新なり」というコア技術の極限追求の文化で「新」を生み出す哲学は、技術開発/技術経営を実践する上で、示唆に富む内容でした。また、中長期視点に立った継続的な研究開発を進めるといって極めて日本的な経営でイノベーションを実現しつつ、「長期的視点でその国の産業振興等に寄与する」方針のもとでグローバル展開を進めるといって同社の経営戦略の神髄が明かされました。

当日は、デザインスクール履修者や京都大学経営管理大学院の学生も多数参加し、講演に熱心に耳を傾けるとともに、活発な意見交換が行われました。



デザインフォーラム ワークショップデザインシリーズ開催報告

1月24日(土)に、京都大学デザインイノベーション拠点において、デザインフォーラム ワークショップデザインシリーズが開催されました。当日は「劇団衛星」を率いながら、大阪大学・青山学院大学のワークショップデザイナー育成プログラムで教鞭をとる蓮行大阪大学特任講師により「デザインしない演劇ワークショップのデザインとは？」と題して、ワークショップが行われました。

様々なコミュニケーションゲームや寸劇によるプレゼンテーションを通じて、初対面の人を巻き込みながら期限内に合意形成を図る手法を学びました。また、デザインしないとは準備に手をかけないことではなく、たくさんの手法とそれらを自在に掛け合わせられるスキルを磨いておき、その場の参加者に合わせた手法を次々に繰り出していくことが重要というメッセージが伝えられました。

自身も俳優である蓮行講師ならではの内容であり、講師も参加者も会場中を縦横無尽に動き回り、コミュニケーションを活性化。双方向・参加型というワークショップにふさわしい場となりました。



フェロー会合開催報告

12月19日(金)に、京都大学デザインイノベーション拠点において、フェロー会合が開催されました。当日は、フェロー所属企業のアイデアに対して異業種の視点から意見を寄せ合うというフェロー主体の新たな活動などについて意見交換が行われました。

次いで開催された1月20日(火)のフェロー会合では、積極的にコンパクトシティを追求するとともに、創造性を喚起する「いいまち」ランプリングタウン（歩いて楽しい街）について、話題提供が行われ、異業種の観点から活発な意見交換が行われました。

2月20日(金)に開催されたフェロー会合では、経営陣がイノベータに期待する能力・素養とイノベータ本人が重視する能力・素養の違い、ホワイトカラーとイノベータの能力・素養の違いなど、日本型イノベータの人材特性について話題提供が行われ、イノベータの人材特性、イノベータを活かす組織、人事、ベンチャー制度の在り方、イノベータの人材育成などについて活発な意見交換が行われました。



推進委員会開催報告

1月20日(火)に、京都大学デザインイノベーション拠点において、コンソーシアム推進委員会が開催されました。当日は、フェローの方々にもご参加いただき、今年度のコンソーシアムの活動について報告が行われるとともに、来年度の事業計画・収支計画案の作成に向けた意見交換が行われました。

また、2月13日(金)にも開催され、大学側からコンソーシアム来年度事業への提案が行われ、意見交換が行われました。そして、この提案及び前回推進委員会の議論を踏まえ、来年度の事業計画・収支計画案について意見交換が行われました。さらに、少額の支出決定を事務局に、実行委員会設置事業に係る支出決定を実行委員長に委任する専決規程の改正が議決されたほか、会員に関する規程の改正について審議されました。



理事会報告

平成26年度第2回理事会が書面審議により開催され、株式会社ワオ・コーポレーション及び株式会社サクラクレパスの入会並びに推進委員会規程の改正について承認可決されました。

会員紹介

株式会社東芝

東芝グループは総合電機メーカーとして人々の暮らしを支え、2015年7月に140周年を迎えます。いま、「エネルギー」、「ストレージ」、「ヘルスケア」の3分野を事業の柱とし、より豊かにいきいきと暮らせる、安心、安全・快適な社会、「Human Smart Community」の実現を目指しています。

その社会を実現させるためには、製品（モノ）の機能や性能など機能的価値（物質的な豊かさ）だけでなく、製品を通じた心地よい体験（コト）によってもたらされる意味的価値（心の豊かさ）を提供していくことが必要だと考えます。東芝グループでは人を大切にするという経営理念のもと、顧客起点で「モノ+こと」の豊かな価値を創造するデザインプロセス「ユーザーエクスペリエンス（UX）デザイン」の実践をすすめています。製品やサービスを得ることでうれしくなるだけでなく、それらを通してコミュニティや社会の役にたつことで心が豊かになり更にうれしくなる、という「うれしさの循環」を顧客とともに創り上げることが、東芝グループの考えるUXデザインです。

このコンソーシアムでは、参加者の高いモチベーションで活発なコラボレーションが実践されています。異領域での専門性と経験をふまえた関連なワークショップは、新たな気づきや幅広い知見に結びつきます。同質的になりがちな社内での活動とは異なり、効果的な相互学習の場となりデザインプロセス実践の推進力となる人材が育つ場であることを実感しています。

「Leading Innovation」を標榜する東芝グループは、デザインイノベーションを創発し社会に貢献するこのコンソーシアムの活動に、ご参加のみならず、いっしょに取り組んでいきたいと思っております。



左から、東芝 デザインセンター
加藤主務（UXデザイン研究）、島野部長（BtoCデザイン）、
湯嶋センター長、小内部長（デザイン統括）、
三上部長（BtoBデザイン）、星野氏（BtoBデザイン）

株式会社竹中工務店

竹中工務店は、1610年（慶長15年）の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる多くの建築物を手掛け社会発展の一役を担ってきました。建築とは、生命や財産を守る器であると同時に社会の資産であり、その時代の文化を後世に伝え継ぐものである。そうした仕事への誇りを込め、私たちは、携わった建物を「作品」と呼んでいます。

私たち建設業に対する社会の期待は、いま大きく変化しつつあります。震災復興やエネルギー・環境問題など社会的課題の解決、都市インフラの老朽化などの課題に対し、グローバルなスケールで持てる力を十分に発揮することが求められています。

更に、まちのあり方が多様化する中で、人々が安心安全で豊かに暮らせるまちづくりをしていくために、環境への配慮はもちろん、健康で快適な空間づくり、幸せや喜び、育みといった「人への優しさ」という視点も重要になってきています。

そのためには、事業の対象を「まち」として捉え、企画・計画から建設、維持管理まで「まち」のライフサイクル全てにおいてデザインしていく必要があり、長期を見据えたデザイン戦略として「まちづくりの全てのステージ」で社会の期待に応え、最良のパートナーとなることを掲げています。

私たちは、京都大学デザイン学大学院連携プログラム及びデザインイノベーションコンソーシアムの活動における他分野に渡る先生方、博士課程履修生や企業の方との交流を通じて、来るべき社会の都市的課題解決のデザイン手法構築を共に目指したいと考えます。

